

一小的校内研修(一人1授業・授業研究会)

国語科の学習

令和4年9月21日(水) 第2校時 6年2組

<单元名> 作品の世界をとらえ、自分の考えを書こう

<学習について>

この单元は、次のような力を育てることをねらいとしています。

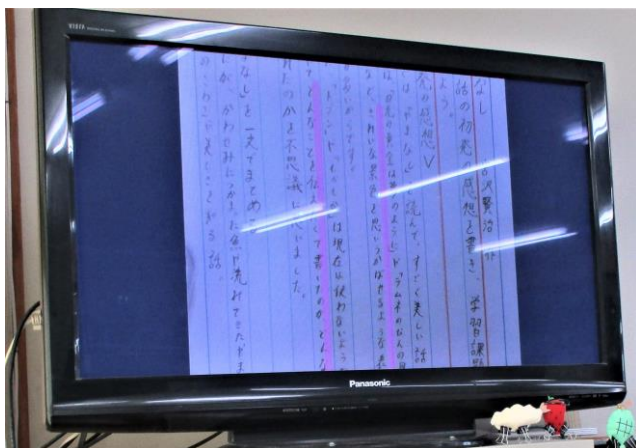
○人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。

○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。

本時のねらいは次の通りです。

「五月」と「十二月」の場面の比較や作者の生き方・考え方をもとに、なぜ作者が「やまなし」という題名にしたのかを話し合うことを通して、作品の世界を捉えることができる。

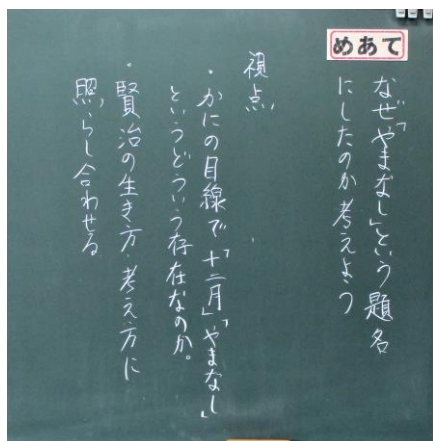
活動1 前時までの学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。



作品を初めて読んだときの感想を手がかりとして、これまでの学習で読み取ってきたことを確かめました。

タブレットやノートにはその足跡が残っています。教室の側面には「五月」と「十二月」の場面の違いが掲示してあります。

活動2 題名を「やまなし」にした理由を自分なりに考え、伝え合う。



ノートやワークシート、タブレットに保存されている学習履歴を参考にして、自分の意見を考えていました。



次に、グループで話し合い、互いの考えを発表し合いました。
そして、自分と考え方が似ていると思う人物を一人選び、その理由を発表しました。

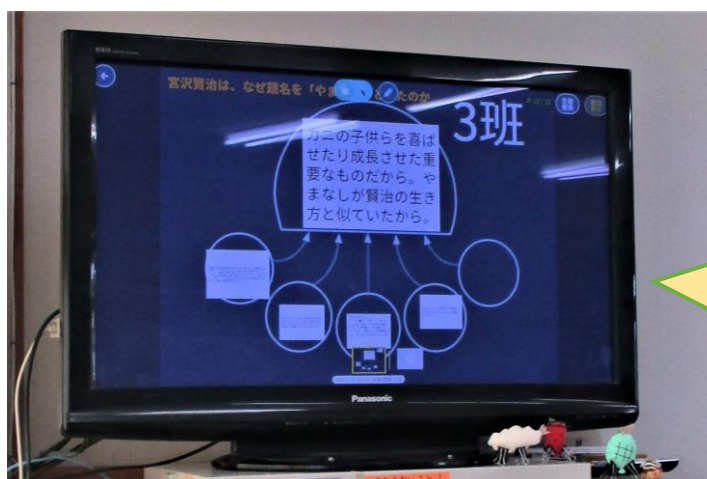
グループの中でお互いの考えを交流させています。
友だちを納得させようと、熱心に語る姿が見られます。



全員が発表し合った後、グループとしての意見をまとめます。とても盛り上がっていました。



3 学習のめあてに対するまとめをし、学習をふり返る。



グループ毎のまとめをTV
やタブレットで共有します。

画面中央のカードがグルー
プとしての意見、その下のカ
ードは個々の意見です。



この学習では、教科書にある教材文「やまなし」を読むだけでなく、作者「宮澤賢治」についての資料「イーハトーブの夢」を読んで、生き方や考え方について話し合っています。

このような背景にも視点をあて、根拠を明らかにして自分なりの考えをまとめる学習です。

友だちの意見を聞き、話し合うことにより、自分の考えを深めていた様子が見られました。